柳亭種秀作　錦昇

其由 緑眼鼠 十六 上冊

梅蝶樓國貞畫　市庫

樂亭西馬作　六編

稲妻形怪鼠摽子

一勇齋國芳画　七編　出板

比異仕立 二個 ぐれん

美多仙果作　四編

一寿斎國貞画　五編

安政七年庚申孟春新刻

萱紅葉　國貞画

字津谷峠

種清録　全三編後切

壽笑亭笑壽作　五編

與謝武郎戀夜話

一壽齋國貞画　六編

錦昇堂　あびきやさん

芳由縁
鄙の面
十六編上
柳亭作
国貞画
十六編下

柳亭種秀の全

十六編の下

種秀作

國貞画

えひすやちん

九曜文庫

十五

舟子多くあく船山ゐ到と云諺有其ゝゐ些異ども侈紫正續の一大長編桐壺の口切てより彼茶所の宇治十帖まゞ故翁のまま(ゞ立さゐされゞ塩瀬のフクサ紅藍と江戸染ゐせ一本色有べゝゐ藤袴を縫さして絶一主緒結術ゐく槙柱の麁麗木造と植木店辺ゐ精ゞゐ名のを一筆とゐ称ど作者替ゐゐ趣も殘り若菜ゐ今戸の土ゐ移しを青々と繁栄るを破菅笠の鳥怕ーゞ預申て黄金のゆゝる花の咲迫生立ゝるゞ夢のあらぬゝ辻褄合ゞ蝶々ゐづこの仁挿籠の搔頭ゞ前髪かき〳〵癡痛く思ゞゐ方や多ゞむ嗟等ゞゐ一種のさゞゐ四五人ゝ作者ゞ交替り加之故ありて石高ゐ瀬ゐ船衡ゐけーゝ今頃月の日和をれゞ人船頭の怠慢ゐく漕ゐゝゐゞゐ兎道河の辺(ゞゝゐ著ざゝん山ゐ到ゝゐ朝日の名伯ゞゞ復己時ゐ立回り日出の合巻とゆをされゝと爭ゝゐく亜技ゝゐ

庚申年孟春菽市

柳亭種秀謹述

寶樹院妙華尼公
俗称藤

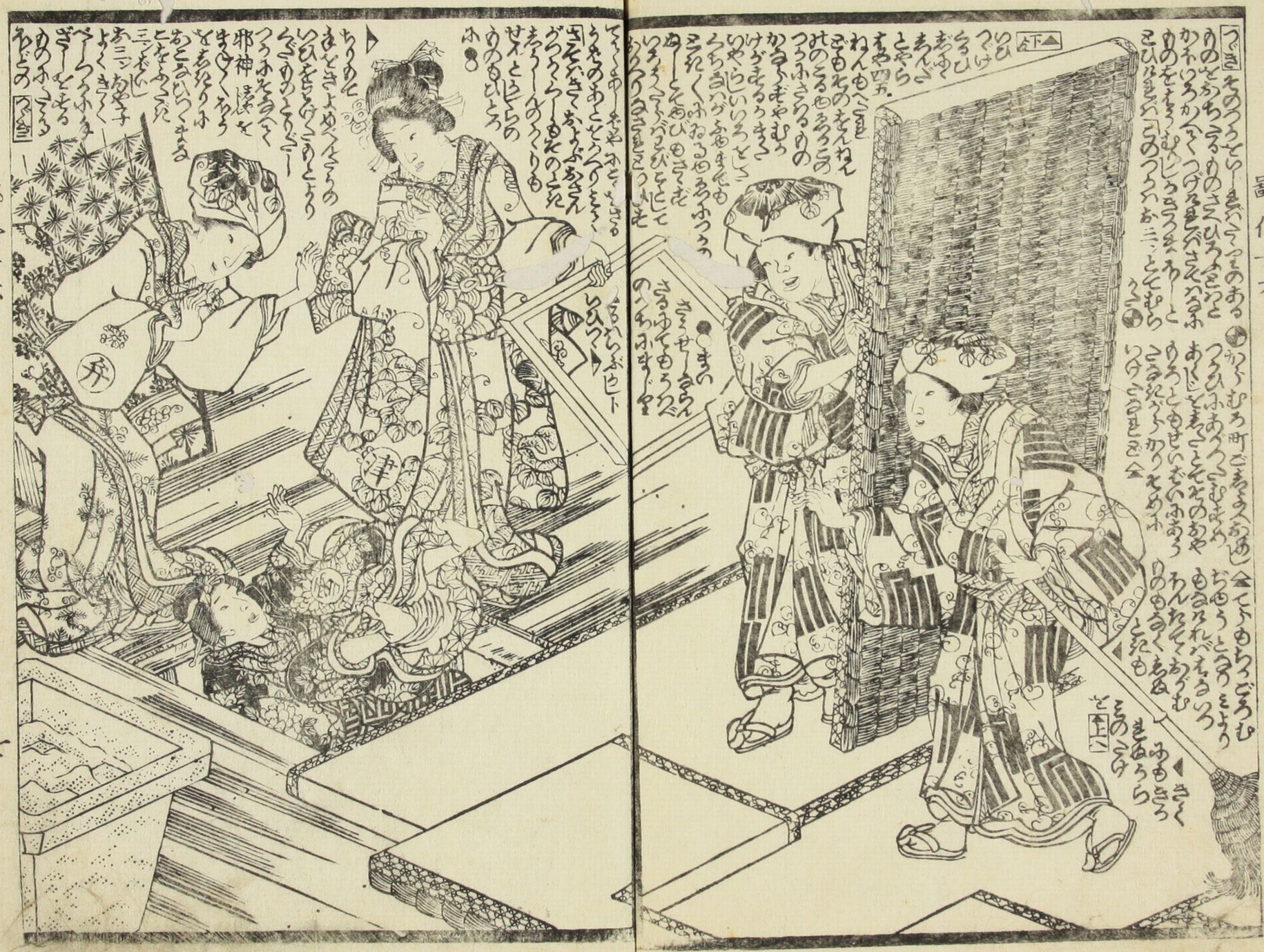
大原素太夫女
於三寛鬼

傳婦小揚

雅楽頭
本文の結構ふ
ようぬ
薄茶の一奥
かる
画様い此草紙ホ
ろんとう他の例
をもうそ
三世姫
六條御所
糧氏公

前将軍義植公
御室磯菜方
桂河久遠寺比丘
阿古木の墓詣の所
正編第廿七の十七
のうらの画と
もんえんぐべたの
発達さ考ぐせ
のつべー

太秦
藥師堂
太子堂



國貞画

種秀作

三

上の巻之八 雲井の亀井の亀

助ねどこの入より

上の巻之八

煙
弁
空
禁
禁

四

○仙果千十四編
小辰
猫の
可
作
御髪
上
本
紫
三世ひな柏
ひな原文の仕組
栄
○あんのちせ
○ちのとく
○ちのとく秋易

紫の上

美術圖書専門販賣
本郷井上支店
井上美術部
東京神田

種秀六 國貞画圖

錦昇堂藏板略目録

其由縁鄙俤　十四編　十五編　十六編　笠亭仙果著作　梅蝶樓國貞画

十勇士尼子の礎　三編　四編　為永春水作　一壽齋國貞画

兩夜鐘四谷雜談　五編　六編　河竹其水作　歌川國貞画

比奈乃都大内譚　初編　二編　笠亭仙果作　一勇齋國芳画

地本繪草紙問屋　江戸てらゝ町　惠比壽屋庄七板